

R1教育庁による一次評価

施設名: 東京都立埋蔵文化財調査センター

大項目	中項目	確認項目	評価水準	配点	評価 水準を上回る 2点 / 概ね水準どおり 1点 / 水準を下回る 0点			評価理由	
					2点	1点	0点		
管理状況	適切な管理の履行	協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか							
		施設・設備の保守点検	電気・機械・防災・建築設備保守点検	点検表の作成(開館日)	× 1		1		計画通り実施した。
			縄文の村設備保守点検	日常清掃(年200日以上) 落葉清掃(年10回以上)	× 1		1		日常清掃は225日実施した。落葉清掃は7回であるが、これは適切な剪定による落葉量減である。
			維持・保全	施設の修繕等の随時実施	× 1	2			経年劣化による多くの修繕を迅速かつ適切に実施しただけでなく、PRや利用者利便向上のための工夫による修繕も実施した。
		清掃	日常清掃	都民対応部分の清掃(開館日) それ以外の部分の清掃(週1回以上)	× 1		1		計画通り実施した。清掃は常に行き届いている。
			特別清掃	設備管理(年1回以上)	× 1		1		計画通り実施した。
			樹木保護等	草刈り(年2回以上) 枝の剪定(年3回以上)	× 1	2			草刈りは5回、剪定は7回実施した。また害虫駆除も頻繁に実施し利用者が安全で快適に過ごせるように努めている。
		受付・管理業務	施設警備	通年(年末年始を除く) 施設・巡回の実施	× 1		1		計画通り実施した。
			受付業務	来館者受付、受付周辺の点検(開館日)	× 1		1		計画通り実施した。
			出土品管理	管理表の作成	× 1		1		データベースを用いて管理を行った。
	人員配置		考古学の専門知識を有する職員を2名以上配置	× 1	2			経験がありなおかつ専門知識の高い学芸員を3名配置し、お客様に満足いただける企画や展示を積極的に行った。	
	人材育成		専門性向上等のための研修の実施(年1回)	× 2		2		世代交代を見据えた人材育成に積極的に取り組んでおり、習熟度に合わせて研修を実施した。	
	安全性の確保	施設の安全性は確保されているか							
		防災・防犯への配慮	消防訓練実施(年1回) 消防設備点検(年1回)	× 1		1		消防訓練は年3回、消防設備点検は年1回実施した。	
			緊急時対策	緊急対応訓練実施(年1回) 発生時のマニュアル整備	× 1	2			震災を想定した避難訓練を1回、休日の少人数配置を想定した避難訓練を15回実施した。また、職員に救急救命講習を受講させ、利用者の緊急時に常に備えている。
		施設・設備管理に関する書類等の管理	点検表の作成(開館日)	× 1		1		日々きちんと作成されていた。	
	事故への対応	施設利用者に影響が生ずる事故等が発生しなかったか 事故等が起きた際の対応や都への報告が適正であったか	× 1		1		事故の発生はなかった。		
	法令等の遵守	個人情報保護、報告等は適切に行われているか							
		個人情報保護の取組み	内部規定の策定 研修(年1回)	× 1		1		個人情報保護研修を実施した。	
		各種法令等の遵守	研修の実施(年1回) 業務に必要とされる関係法令遵守体制の整備	× 1		1		汚職等非行防止等研修を実施した。	
		都への報告・連絡	迅速かつ遺漏のない報告	× 1		1		台風時の都教委への報告を迅速に実施し都教委と常に連絡を取りながら休館等の措置を行った。	
	情報事故への対応	個人情報の漏えいや個人データの紛失事故等が発生しなかったか 事故等が起きた際の対応や都への報告が適正であったか	× 1		1		紛失事故の発生はなかった。		
	適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか							
		経営状況(安定的な運営)	収支状況の均衡性	× 1		1		ほぼ収支均衡となり健全な財政状況である。	
		経理処理	経理の明確な区分 帳簿、関係書類による経理状況の明確化	× 1		1		2回立ち入り調査を行い確認したが適切に処理されていた。	
		都有財産(物品など)の管理	保全物品整理簿の整備 不適格品、亡失品等の報告	× 1		1		帳簿調査を行ったが適切に処理されていた。	
	経理・現金に関する書類等の管理	帳簿、関係書類の整備、保存(指定期間終了後5年間)	× 1		1		帳簿調査を行ったが適切に処理されていた。		

R1教育庁による一次評価

施設名: 東京都立埋蔵文化財調査センター

大項目	中項目	確認項目	評価水準	配点	評価 水準を上回る 2点/概ね水準どおり 1点/水準を下回る 0点			評価理由	
					2点	1点	0点		
事業効果	事業の取組・サービス向上	求められる水準のサービスが提供されているか							
		年間事業	公開事業	常設展示 復元住居での火焚き(年200日)	× 2		2		復元住居での火焚きを292日行った。常設展示は展示内容を変えリピーターの方にも楽しんでいただけるよう工夫した。
			資料貸出	貸出状況等の確認(貸出簿の作成)	× 1		1		貸出簿を作成し適切に貸出業務を行った。
		企画事業等	企画内容(企画の充実度、豊富さ)	イベントの見直し(3つ) 新規事業(1つ)	× 2		4		親子向け行事を拡大するなど新規事業を4行事開設した。また人気の高い行事は参加者枠を増やしたり、興味が湧くような行事名に変更するなど見直しや工夫を行った。
			積極的な広報・PR	HPの更新(月1回) 情報誌への広告掲載(年5回以上)	× 1		2		HPは月1回以上の更新を行った。ツイッターを開設し、若年層を中心とした情報発信を行った。また9情報誌への掲載を随時行ったほか、多摩地域のお出かけ情報(子育てサイト)への掲載、近隣へのチラシ配布を初めて実施するなど広報活動を積極的に展開した。
		利用者の目線に立ち、多様な利用者に配慮した案内・環境整備	展示説明の多言語表示	× 1		1		QRコードを活用した外国人利用者の利便性向上や庭園内樹木説明版の設置、駅への表示など、利用者の目線に立った案内や整備を行った。	
	利用の状況	求められる水準の利用状況となっているか							
			事業企画の成果	都事業との連携	× 2		4		「ひと×いきもの」と題し出土品からわかる人間といきもの多様ななかかわりの歴史を分かりやすく紹介・展示を行った。また初めて「特別展示」を11月に実施し学芸員によるギャラリートークも開催したことは評価できる。
			利用者数(環境の変化など外部要因を考慮)	年間27,500人以上	× 2		2		小学校カリキュラム変更による学校団体見学の減や、新型コロナウイルスの影響により32日間の臨時休館の影響が大きく目標数には到達しなかったものの27,264人の利用者数があった。
	利用者の反応	利用者の満足を得られているか							
			職員の接客対応(職員の親切さ、説明の分かりやすさ等)	本項目に関する利用者満足度90%以上	× 2		4		アンケートの結果、職員の接客に対する満足度は「98.4%」と非常に高い評価を受けている。
			設備の快適さ(清潔さ、明るさ、温度設定等)	本項目に関する利用者満足度90%以上(建物本体に対する事項は除く)	× 1		1		各ブロックに分けてアンケートを行ったが全ての項目で満足度90%を超えており、快適に過ごせるよう常に配慮していることが分かる。
	苦情等の対応	迅速な対応	× 1		1		苦情はほとんどなかったが、要望については迅速に対応可能なものから対応した。		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数については目標利用者数の27,500人に届かなかったものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のための令和2年2月29日から令和3年3月31日までの32日間の臨時休館等がなければ目標は達成できていた数値である。これは利用者目線にたった事務企画や運営、施設管理や質の高い接客の結果であり高く評価できる。 アンケートや昨年度実績の精査結果を業務改善に生かし常にサービス向上に務めている。 								
要改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい生活様式」においてお客様に満足いただけるような広報普及活動ができるよう工夫された計画・実施をお願いしたい。 今後も引き続き質の高いサービスを期待する。 								

※管理運営状況の確認結果や各確認項目の評価理由をもとに、総合的かつ具体的に記述してください。

【一次評価結果】

合計点	51	評価	A
-----	-----------	----	----------

標準点	評価基準			
	S	A	B	C
評価委員が全て注意の評価を受けた場合の得点	標準点の1.33倍(小数点以下切上)以上	S-1点以下 標準点の1.25倍(小数点以下切上)以上	A-1点以下 C+1点以上	標準点の0.88倍(小数点以下切捨)以下
40点	54点以上	50点以上	36点以上49点以下	35点以下

R1教育庁による一次評価

施設名: 東京都立埋蔵文化財調査センター

【確認事項】

1. 財務状況

指定管理者の財務状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の財務業績は、経常収益7,347百万円、経常費用7,452百万円で、当期経常増減は△103百万円の赤字であった。(前期は△14百万円の赤字) 事業別の内訳では、公益目的事業が△159百万円の赤字(スポーツ事業△133百万円赤字、埋蔵文化財事業△26百万円赤字)で、収益事業が53百万円の黒字、法人会計が0.3百万円の黒字であった。公益目的事業では、スポーツ事業が改修工事による休館の影響と新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館の影響により赤字となった。埋蔵文化財事業は、予定していた調査事業のうち2件について、発注者側の事情により令和2年度以降にずれ込んだなどの結果、赤字となった。なお、埋蔵文化財事業では、埋蔵事業特定費用準備金2百万円を取崩し事業を実施している。 現預金1,461百万円と特定資産476百万円があり、資金繰り上の問題はない。公益財団であり、収支均衡の経営を堅実にやっている。
------------	---

※財務諸表上から得られた情報や財務分析結果など、客観的な情報を記述してください。

2. 特命要件の継続

特命により指定管理者を選定した施設については、以下に示す(1)または(2)のとおり、特命要件の継続状況について検証してください。

(1) 特命により指定管理者を選定した施設について

特命により指定管理者を選定している場合、特命要件を挙げ、各要件の継続状況について確認してください。

特命要件の継続	<ul style="list-style-type: none"> <特命要件> ・考古学の専門知識を持つ多くの学芸員が、専門性を必要とする当施設の指定管理業務を適切に行うことができる。 ・都の埋蔵文化財調査研究を担ってきたことにより蓄積した研究成果や最新の発掘情報を保有しており、当施設の出土時の情報や考古学的分類・評価等について精通している。 <特命要件の継続状況> ・出土品の展示や案内表示、縄文庭園の管理等において考古学の専門知識が必要であり、それらの知識を持った多くの学芸員が積極的かつ適切に業務を遂行している。 ・財団設立当時より蓄積してきた発掘調査における研究成果や、現在行っている多くの発掘調査の情報も保有している。そのため出土時の情報も熟知しており、考古学的分類や評価について精通している。
---------	---

(2) 東京都政策連携団体を特命により選定した施設について

選定時の特命要件の継続について、施設の位置づけや役割等を再検証のうえ、以下の項目を参考として各施設に相応しい項目を設定し、検証してください。

特命要件の継続	埋蔵文化財調査の本部施設として、本施設の設置目的と合致した活用が図られているか	○ 合致 ○	変更あり
	都立埋蔵文化財調査センターの目的を達成するため、考古学の知識と経験を有する学芸研究員を従事させ、埋蔵文化財や史跡の適切な保存及び活用が遂行されているか	○ 適切 ○	適切でない
	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団が調査した埋蔵文化財資料(特に多摩ニュータウン発掘資料)を中心とした展示・情報発信が行われているか	○ 実施 ○	未実施
	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団の自主事業と本指定管理者業務が相互に活用され、事業の充実が図られているか	○ 適切 ○	適切でない
	<評価理由>		
<ul style="list-style-type: none"> ・施設は埋蔵文化財調査の本部施設として、設置条例に定める目的と合致して活用が図られており、考古学の専門知識を有する学芸研究職員により埋蔵文化財等の保存活用を適切に実施している。 ・発掘調査成果を活用した展示や工夫を凝らした企画事業で東京都全体の埋蔵文化財保護の情報発信を実施している。 ・指定管理業務と共に自主事業も充実させることにより、施設全体の事業の充実と効率化が図られており、特命要件は継続されている。 			